

# 舞鶴市次期総合計画

# ～策定に向けて～

## 次期総合計画策定に向けて⑥ 舞鶴をもっと暮らしやすい まちに市民ワークショップ

次期総合計画策定までを、年間を通してお伝えする「シリーズ市政の今 特別編」。今回は、まちの将来像や今後取り組むべき施策などについて広く市民の皆さんから意見をいただくため、昨年11月から5回にわたって開催した「総合計画市民ワークショップ」の結果を紹介します。



**43人がまちの将来を議論**  
ワークショップには、市内各団体からの推薦や公募で集まった市民、市職員ら43人が参加。政策分野ごとに「活力あるまちづくり」「安心のまちづくり」「心豊かに暮らせるまちづくり」の3グループに分かれ、それぞれ検討テーマを設定して意見を交わしました。



心豊かに暮らせるまちづくりグループ



活力あるまちづくりグループ

### 審議会へ報告書を提出

5月2日に開催された第3回総合計画審議会では、市民ワークショップの各グループリーダーが意見交換の結果を報告。「この報告書には私たちのもっと暮らしやすいまちにしたいとの思いが詰まっています。これらの意見が総合計画に反映されることを願っています」と話し、審議会の齋藤福栄委員長に報告書を手渡しました。この日の審議会では、ワークショップからの提案・アイデアを盛り込んだ答申素案の作成に向けた議論が展開されました。

市では今後、審議会からの答申や市民ワークショップからの意見などを踏まえて次期総合計画案をまとめ、12月にパブリック・コメントを行う予定。

※市民ワークショップから提出された報告書は市ホームページに掲載。

**各グループで課題分析、検討**  
各グループでは、市民の方が持つ専門知識や日頃感じていること、市職員が持つ情報を共有しながら、産業や観光、防災、福祉、子育てなどの分野ごとに現状と課題を分析し、その解決に向けたまちづくりの

方向性や具体的施策について検討を行いました(各グループの主な検討テーマ、提案・アイデアは次のとおり)。

### 活力あるまちづくりグループ

#### 検討テーマ

- ◆産業振興(商工業・農林水産・雇用・京都舞鶴港・エネルギー)
- ◆観光◆スポーツ振興・交流◆地域連携(北部連携・旧軍港4市など)◆歴史文化を活かしたまちづくり

#### 【主な提案・アイデア】

- ◆ 農林水産業の振興には、ブランド化やPRに努めて「稼げる一次産業」のビジネスモデルとイメージ形成が必要。
- ◆ できるだけ長く続けられる仕事と求職者のマッチングを目指し、職種を増やすことやニーズ把握が必要。
- ◆ 京都舞鶴港は人流・物流の両面で大きな可能性を持つことから、国際社会の潮流を踏まえつつ、経済交流の促進などの強化を図るとともに、より使ってもらいやすい港を目指した港湾振興が必要。
- ◆ 再生可能エネルギーの積極使用やCO2削減の取り組みは国際的に環境配慮型の製品が求められるようになってきていることから、市内企業を守ることもなり、国・市の国際競争力を保つことにつながる。
- ◆ スポーツの楽しさが広く市民に伝えられる場所や機会を持つことで競技人口を増やし、競技力を高めたい選手に対しては十分な指導が行える環境を整えるべき。



安心のまちづくりグループ

### 安心のまちづくりグループ

#### 検討テーマ

- ◆医療◆健康づくり◆障害福祉◆高齢者福祉◆防災◆防犯◆消防◆都市基盤整備(都市計画・道路・公園・上下水道・公共交通)

#### 【主な提案・アイデア】

- ◆ 不足する介護人材の育成・確保のため、学校教育の段階から介護に関する情報提供を行い、地域においても積極的に世代間交流の機会を創出するなど、介護職に興味を持てるような取り組みを行う必要がある。
- ◆ 地域住民間のつながりが希薄になる中、あらゆる世代が地域コミュニティに参加し、共に取り組むことで、防災・防犯に強い地域づくりを行っていく必要がある。
- ◆ 舞鶴版コンパクトシティの推進は、まちなかへの自動車の進入を少なくする取り組みなど、誰もが歩きやすいまちづくりの検討が必要。
- ◆ 市民生活に安らぎを与える公園や広場などは、市民の身近な健康づくりや交流の場としての活用が期待できる。観光地としての整備が進む「舞鶴赤れんがパーク」をはじめとして、市民が日々集い、親しみを持ち、愛される公園づくりをしていく必要がある。
- ◆ 利用者がストレスなく使いやすい公共交通を実現するため、利用者ニーズに応じた公共交通ネットワークの検討や利用促進策の実施が必要。

### 心豊かに暮らせるまちづくりグループ

#### 検討テーマ

- ◆移住定住(まちなか・農漁村)◆生涯学習・地域コミュニティ◆子育て◆保育◆教育◆環境◆行財政改革

#### 【主な提案・アイデア】

- ◆ 最重要課題は将来の舞鶴を担う子ども達の教育であり、舞鶴市の魅力である0歳から15歳までの切れ目のない質の高い教育の充実を引き続き推進する中で、小中一貫教育など先進的な取り組みを進め、子育て世代に選ばれるまちを目指してほしい。
- ◆ 子ども達が、ふるさとへの誇りや愛着を育むためには、小・中学校が行う教育活動に対して、地元企業や地域が学校を支援しやすい体制の整備が必要。
- ◆ 移住定住の促進に向けて、舞鶴の魅力をさらにPRするとともに、移住定住のターゲットを若者だけでなく引退世代も含めて想定し、さらに幅広い層を取り込む工夫が必要。
- ◆ 今ある学校施設を有効に活用するため、人口動態などを統計的に分析し、将来の子どもの数を想定した上で、校区の見直しを行うなど、時代や環境の変化に先駆けた検討が必要。
- ◆ これまで以上に多様な主体が連携して地域課題の解決を図る「新たな地域コミュニティ」のあり方が求められる。